

病害虫の  
見分け方  
シリーズ

## カンキツを加害するカイガラムシ類の見分け方

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
植物防疫研究部門

あら 井 とも のり  
新 井 朋 徳

### はじめに

カイガラムシ類は、カメムシ目 (Hemiptera) カイガラムシ上科 (Coccidae) に属する昆虫で (河合, 1980), その多くは樹脂成分やロウ物質のような分泌物で虫体が保護されている (河野, 1938)。日本国内のカンキツでは約 60 種のカイガラムシ類が有害種として記録されている (日本応用動物昆虫学会, 2006) が, 栽培上問題となる種は約 10 種に限られる。多くのカイガラムシにはその密度を低く抑える有力な天敵がおり, 密度が低いときには葉の裏や葉と葉の重なるの間など目立ちにくい部位に寄生していることが多い。カイガラムシ類の存在に気が付いたときには密度が高くなり, 樹勢の低下や果実等への被害が生じていることが多い。特に天敵類に悪影響のある薬剤散布の連用や, 天敵類の活動が制限される施設栽培などでは, カイガラムシ類の多発が起こる可能性があるので注意が必要である。

カイガラムシ類の多くは雌雄で成虫の形態が著しく異なる (図-1)。雄は前蛹や蛹を経て有翅で飛翔能力がある成虫

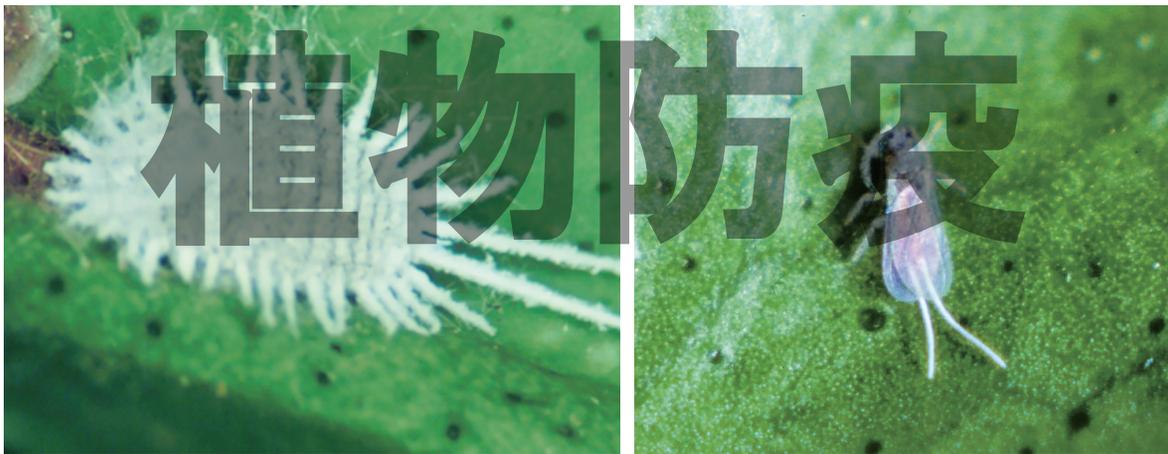


図-1 ミカンヒメコナカイガラムシの雌成虫 (左) と雄成虫 (右)  
カイガラムシ類の雄成虫は翅を持ち, 雌成虫を探すため飛翔することができる。



図-2 ミカンヒメコナカイガラムシの1 齢幼虫 (左) と雄の前蛹 (中央図左), 蛹 (中央図右), 雄の繭 (右)  
コナカイガラムシ類の雄は2 齢幼虫の途中から繭を形成し, その中で前蛹, 蛹となり, 雄成虫となる。マルカイガラムシ類などは繭を形成せず, 介殻の下で前蛹, 蛹を経て雄成虫となる。

Identification of Scale Pests on Citrus. By Tomonori ARAI

(キーワード: カンキツ, イセリヤカイガラムシ, コナカイガラムシ類, カタカイガラムシ類, ロウムシ類, マルカイガラムシ類)